

旧約聖書の預言者



2026年10月17日
第3課



「出て行くとき、
ヨシャファトは立って
言った。「ユダと
エルサレムの住民よ、
聞け。あなたたちの神、
主に信頼せよ。
そうすればあなたたち
は確かに生かされる。
またその預言者に
信頼せよ。そうすれば
勝利を得ることが
できる。」

(歴代誌下20：20新共同訳)



「その出て行くとき、
ヨシャパテは立って
言った、「ユダの人々
およびエルサレムの民よ、
わたしに聞きなさい。
あなたがたの神、主を
信じなさい。そうすれば
あなたがたは堅く立つ
ことができる。主の
預言者を信じなさい。
そうすればあなたがたは
成功するでしょう」。
(歴代志下20：20口語訳)

旧約聖書の時代、神からのメッセージを受け取り、それを他の人々に伝える役割を担った人々は、「先見者」あるいは「預言者」と呼ばれていました（サム上 9:9）。

彼らには、隠された事柄や、さらにはまだ起こっていないことさえも知る能力があった（サム上 9:6）。しかし、彼らの働きはそれだけにとどまらず、はるかに広い範囲に及んでいた。もちろん、この能力は彼ら自身から来たものではなく、神から与えられたものであった。

しかし、「自分の心の思い」を語る偽預言者たちもいた（エレ 23:16）。



預言者の人間性

真の預言者を見分ける

預言者の役割

女預言者

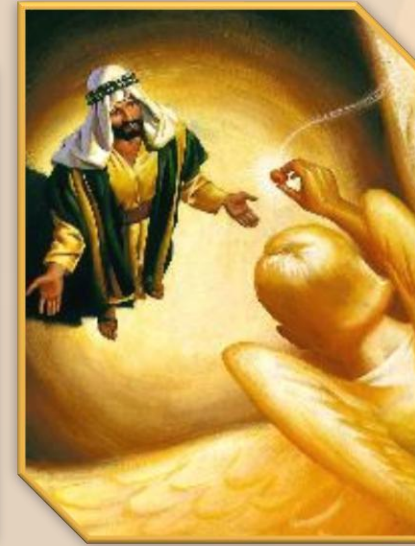
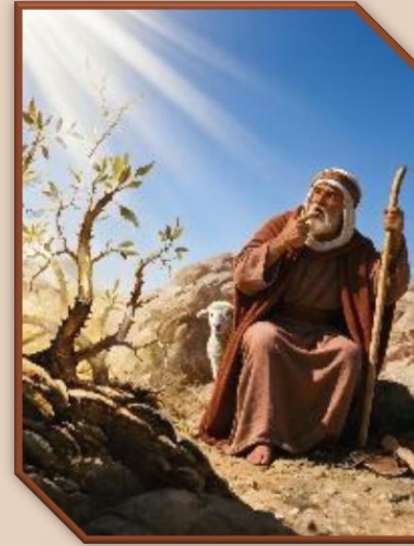
偽預言者

預言者の人間性

エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。(ヤコブ 5:17)

私たちは、預言者たちが「超人」だったと信じてしまいがちです。しかし、モーセは口が重いためと辞退しました(出 4:10)。イザヤは、自分の唇が汚れていると言いました(イザ 6:5)。エレミヤは、その任務には自分が若すぎると考えました(エレ 1:6)。

アハブ王の不敬虔さを理由に、あえて大干ばつで彼を脅したエリヤについて、「彼は私たちと同じように、ただの人間であった」(ヤコ 5:17)と記されている。



偉大な奇跡を起こした後、エリヤはイゼベル王妃からの死の脅威にさらされ、すっかり打ちひしがれてしまった(王上 19:2-4)。

神が預言者を選ぶのは、彼らが完璧だからではないことは明らかです。では、神は彼らに何を見出しているのでしょうか。それは、神への愛と、神に従おうとする心です。



あなた自身の人生や日々の労苦において、
時に「失敗」しているような感覚に
陥りやすいのはなぜでしょうか。
落ち込んだ気持ちを乗り越えるために、
どのような聖書の約束を頼りに
できるでしょうか。

真の預言者を見分ける

ミカヤは、「主は生きておられる。主がわたしに言われる事をわたしは告げる」と言って、(王上22:14)



預言者や女預言者たちは、神の代弁者として、その召命にふさわしく生きようと努めました(サム上 12:3-4)。人々は彼らを「神の人」や「尊敬される人」として認識していました(サム上 9:6)。

彼らのメッセージを受け入れようとしなかった者たちは、彼らを憎み、脅した(王上 22:8、27)。しかし、彼らが直面した圧力にもかかわらず、預言者たちは忠実にメッセージを伝えた。

ミカヤは、二人の王、好意的な預言を告げる400人の預言者、そして状況に合わせて振る舞うよう助言する護衛の者の前に立ちました(王上 22:10-13)。しかし彼は毅然とした態度を保ち、神がご自身を啓示されたこと以外は何も語ろうとしませんでした(王上 22:14)。

彼らは完璧ではなかったが、祈りの人であり、御言葉に忠実であり、神とその民に仕える者たちであった(サム上 12:23；エレ 42:4)。



サムエル記上8:4～22 **8:4** イスラエルの長老は全員集まり、ラマのサムエルのもとに来て、**8:5** 彼に申し入れた。「あなたは既に年を取られ、息子たちはあなたの道を歩んでいません。今こそ、ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」**8:6** 裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。**8:7** 主はサムエルに言われた。「民があなたに言うままに、彼らの声に従うがよい。彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。**8:8** 彼らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、彼らのすることといえば、わたしを捨てて他の神々に仕えることだった。あなたに対しても同じことをしているのだ。**8:9** 今は彼らの声に従いなさい。ただし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君臨する王の権能を教えておきなさい。」**8:10** サムエルは王を要求する民に、主の言葉をことごとく伝えた。**8:11** 彼はこう告げた。「あなたたちの上に君臨する王の権能は次のとおりである。まず、あなたたちの息子を徴用する。それは、戦車兵や騎兵にして王の戦車の前を走らせ、**8:12** 千人隊の長、五十人隊の長として任命し、王のための耕作や刈り入れに従事させ、あるいは武器や戦車の用具を造らせるためである。**8:13** また、あなたたちの娘を徴用し、香料作り、料理女、パン焼き女にする。**8:14** また、あなたたちの最上の畑、ぶどう畑、オリーブ畑を没収し、家臣に分け与える。**8:15** また、あなたたちの穀物とぶどうの十分の一を徴収し、重臣や家臣に分け与える。**8:16** あなたたちの奴隷、女奴隷、若者のうちのすぐれた者や、ろばを徴用し、王のために働かせる。**8:17** また、あなたたちの羊の十分の一を徴収する。こうして、あなたたちは王の奴隷となる。**8:18** その日あなたたちは、自分が選んだ王のゆえに、泣き叫ぶ。しかし、主はその日、あなたたちに答えてはくさらない。」**8:19** 民はサムエルの声に聞き従おうとせず、言い張った。「いいえ。我々にはどうしても王が必要なのです。**8:20** 我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いをたたかうのです。」**8:21** サムエルは民の言葉をことごとく聞き、主の耳に入れた。**8:22** 主はサムエルに言われた。「彼らの声に従い、彼らに王を立てなさい。」サムエルはイスラエルの人々に言った。「それぞれ、自分の町に帰りなさい。」

レビ記8:10～13 **8:10** 続いてモーセは聖別の油を幕屋とその中のすべてのものに注いで清め、**8:11** その油の一部を祭壇に七度振りまき、祭壇とすべての祭具、洗盤およびその台に注ぎかけて聖別した。**8:12** 次に、聖別の油の一部をアロンの頭に注ぎ、彼を聖別し、**8:13** 続いて主の命じられたとおり、モーセはアロンの子らを進み出させ、彼らに長い服を着せ、飾り帯を締め、頭にターバンを巻いた。

預言者は王や祭司との関係において、どのように役割を果たしましたか。

預言者の役割

ニムシの子イエフにも油を注いでイスラエルの王とせよ。またアベル・メホラのシャファトの子エリシャにも油を注ぎ、あなたに代わる預言者とせよ。(王上 19:16)

預言者たちは、
とりわけ次のような
役割を果たし
ました：



王と共に

👑 預言者は王にまた預言者に油を注いだ。
(王上 19:16)

👑 彼らが善行をなしたとき、彼らは彼らを励ました(歴下 15:8)

👑 彼らが過ちを犯したとき、彼らは彼らに立ち向かった。
(王上 21:20)

祭司と共に

👑 彼らが過ちを犯したとき、彼らは彼らに詰め寄った。
(マラ 2:1-2)

人々と共に

👥 彼らは彼らに神の道を教えた(ミカ 6:8)
彼らは彼らに自分の罪を告白した(イザ 58:1)
彼らは彼らに悔い改めを呼びかけた
(エゼ 18:32)

私達と共に



彼らはそのメッセージを文書に記した。
(歴下 13:22)

最も尊敬されている「神の人（預言者）」
たちであっても、あなたが知る限り、
欠点のない人間など一人もいないのでは
ないでしょうか。

女預言者

ラピドトの妻、女預言者デボラが、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。(士師記4:4)

旧約聖書には、5人の女預言者が登場します。そのうちの1人、ノアディアは偽預言者でした(ネヘ6:14)。もう1人、イザヤの妻については、彼女が預言の賜物を持っていたから「女預言者」と呼ばれたのか、それとも預言者の妻だったからそう呼ばれたのかは定かではありません(イザ8:3)。



ミリアム：預言者として、紅海を渡った後、女性たちを率いて歌を歌った。また、砂漠での旅の途中、兄弟たちを補佐して民を導いた(出15:20、ミカ6:4)。



デボラ：彼女は預言者と裁判官という二つの役職を兼任し、バラクと共にシセラとの戦いで民を率いた。勝利の後、彼女は預言的な賛美の歌を歌った(士4:4-9; 5:1)。



フルダ：ヨシヤ王は、発見された律法の書について彼女に助言を求めました。彼女は王の質問に答えるだけでなく、王を励ます言葉もかけました(王下22:14-20)。

神に召されたとはいえ、男預言者も
女預言者も、恵みを必要とする罪人でした。
預言者たちの物語から、あなたはどのような
希望を見出すことができますか。

偽預言者

主はわたしに言われた。「預言者たちは、わたしの名において偽りの預言をしている。わたしは彼らを遣わしてはいない。彼らを任命したことも、彼らに言葉を託したこともない。彼らは偽りの幻、むなしい呪術、欺く心によってお前たちに預言しているのだ。」(エレミヤ 14:14)

預言した者すべてが、神からのメッセージを受けたとは言えない（エレ 14:14）。彼らのメッセージは何だったのか、なぜそれを伝えたのか。

彼らは自分たちで預言をでっち上げた（エゼ 13:2、17）

彼らは、人々が聞きたいことを語った（エゼ 13:16）

彼らは罪に対して声を上げなかった（エゼ 13:22）

彼らは私利私欲を追求していた（エゼ 13:19）



真実ではないと分かっているながら、なぜ人は神の代弁者だと主張するのでしょうか？自己欺瞞でしょうか？それとも、認められたいという欲求、あるいは金銭的・その他の利益を求める気持ちからでしょうか？

偽預言者について最も悲しいのは、彼らの言葉に耳を傾け、従う人々がいるということだ。彼らは、その言葉に何の努力も必要とせず、良心を揺さぶられることもないため、その言葉を好むのだ。しかし、彼らの道を歩むことは、死へとつながるだけである。

真の預言者は常に罪の危険性について警告し、その結果がどうであれ、人々に信仰を貫くよう励まします。



預言者であろうとなかろうと、世論に
迎合するのはいつだって簡単なことです。
文化がいかに腐敗する可能性があるかを
考えると、そうすることが決して
良い考えとは言えないのはなぜでしょうか。

「使徒や預言者たちの中には、だれも罪がないと主張した者はいない。神に最も近く生きた人々、知っていて悪い行いをするよりはいのちを犠牲にしようとする人々、神が聖なる光と権能をもって賞賛した人々は、自分たちの性質の罪深さを告白してきた。彼らは自分自身に信頼せず、自分の義を主張せず、キリストの義を深く信頼した。」

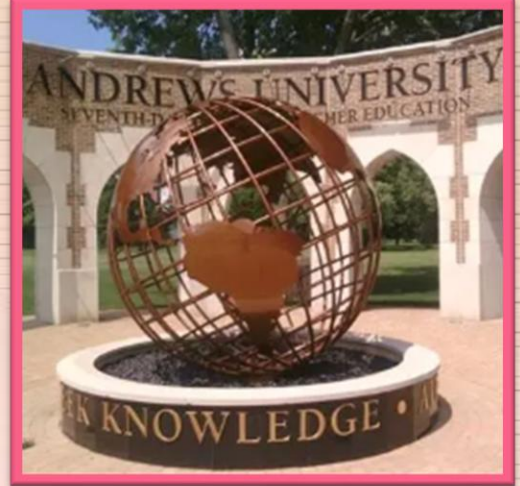
EGホワイト (艱難から栄光へ、第55章)

付録：エレン・G・ホワイトの預言的召命

最初の啓示を受けた後、エレンは預言者としての使命を果たす準備がまだ整っていないと感じた。体調が優れず、教育も十分ではなかった17歳の彼女は、その召命を果たすに値しない、またその能力もないと感じていた。

最初の啓示から1週間後、彼女は2度目の啓示を受け、そこで自分が直面することになる試練について警告されました。長い祈りの末、兄弟姉妹たちからの励ましもあり、エレンはついにその召命を受け入れました。

20年足らずの間に、数々の啓示を受け、夫のジェームズ・ホワイトの支えを得て、彼女はセブンスデー・アドベンチスト教会の基礎を築く一助となった（同教会は1863年に正式に設立された）。



彼女の働きは、アドベンチストの医療・教育システムの確立に大きく寄与し、彼女は約10万ページに及ぶ靈感に満ちた著作を残しました。それらの著作は、今もなお世界中に神の教えを伝え続けています。

